

平成 17 年 5 月 25 日
ユニチカ株式会社

ハナビラタケの美容効果について

ユニチカ(株)中央研究所(京都府宇治市)は、「幻のきのこ」ハナビラタケが肌の「はり」や「潤い」を保つ成分であるコラーゲン産生を促進する効果や美白作用などの美容効果を有することを見出しました。当社といたしましては、今回の研究成果を今後の商品開発に生かすべく今後も鋭意努力する所存です。

【研究成果の概要】

美しく健康な肌の状態は、弾力と水分率により決まることが知られています。一般に真皮ではコラーゲンやエラスチンといった繊維組織が整っているほど弾力がある健康な肌となりますが、これらのコラーゲンやエラスチンを生み出す工場ともいえる“繊維芽細胞”をハナビラタケは活性化し、コラーゲンの産生を促進する効果を有することを確認しました。また、ハナビラタケには、シミ・ソバカスの原因となるメラニン色素の生成を抑える成分が含まれていることも確認しました。

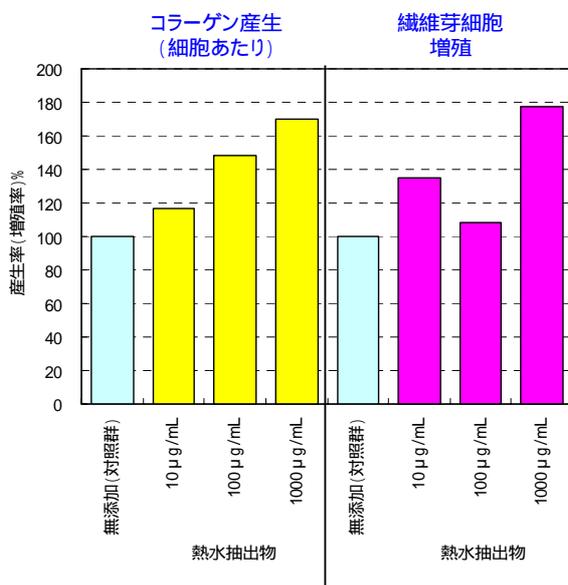
< 実験方法及び結果 >

ハナビラタケ抽出液のコラーゲン産生促進効果

皮膚の真皮層を構成する主要細胞である繊維芽細胞のコラーゲン産生量に対するハナビラタケ抽出液の効果を評価しました。

ヒト正常繊維芽細胞の培養液にハナビラタケの熱水抽出物を添加し、一定時間培養後、繊維芽細胞の増殖とコラーゲン産生能を測定しました。その結果、ハナビラタケ熱水抽出液は濃度依存的に繊維芽細胞の増殖を促進し、且つ 1 細胞当りのコラーゲン産生能を向上させることが判明しました(図 1)。

図 1. ハナビラタケ抽出液のコラーゲン産生促進効果

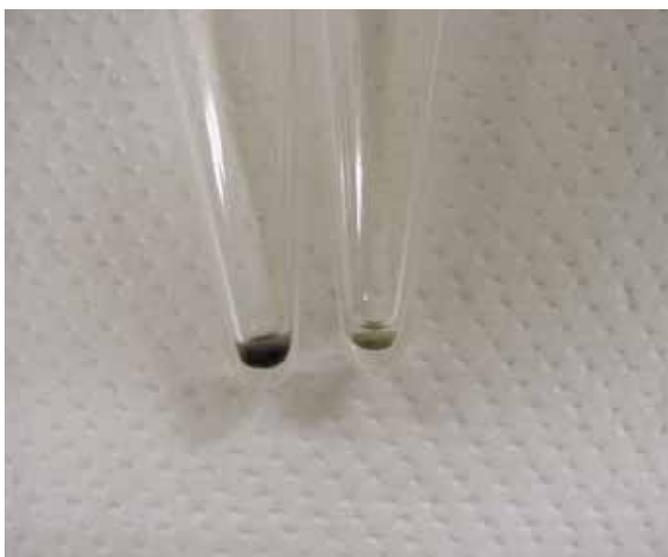


ハナビラタケ抽出液の美白効果

シミ・ソバカスは、加齢や紫外線により過剰なメラニン色素が生成されることによって引き起こされます。近年、「美白ブーム」という言葉で表わされるようにメラニン色素生成の抑制即ち美白効果に対する要望は極めて高いものがあります。そこで、ハナビラタケの美白効果の評価を行ないました。

メラノーマ細胞の培養液にハナビラタケ抽出物を添加し一定時間培養後のメラノーマ細胞を観察したところ、ハナビラタケ中にはメラノーマ細胞を白色化させる（美白効果の有る）成分が含まれていることが判明しました（図2）。

図2.ハナビラタケ抽出物の美白効果（メラノーマ細胞）



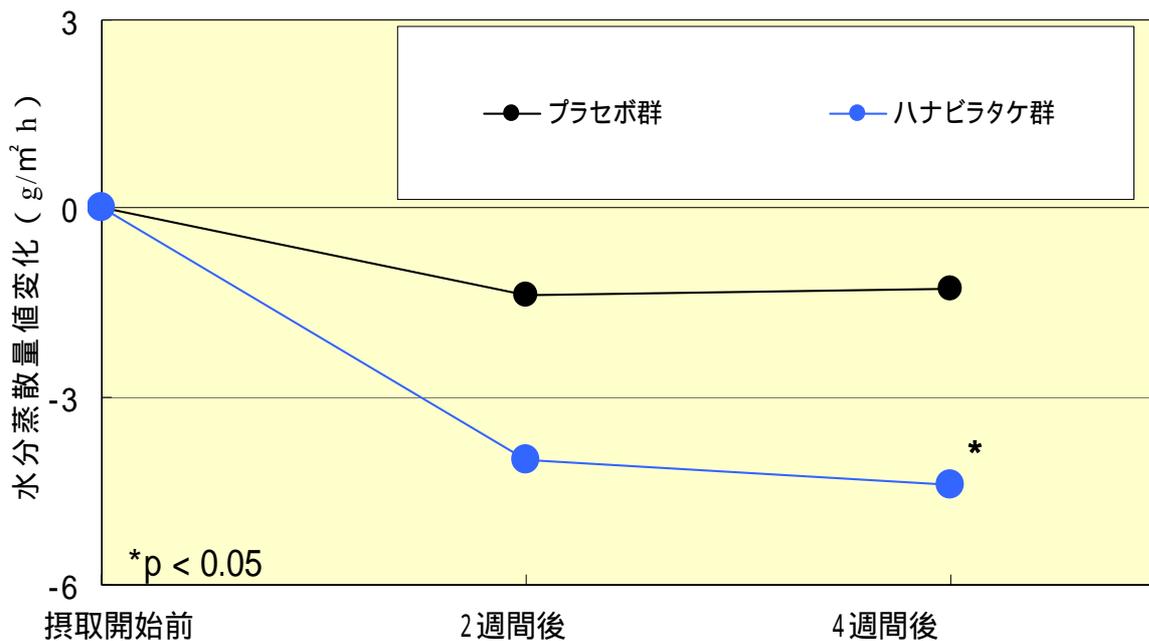
対照 ハナビラタケ抽出物

ヒトでの美容効果の確認

上記試験によりハナビラタケが美容効果を有することが期待されたので、ヒトでの美容効果を検証することを試みました。年齢・性別が均等になるように振り分けた2群に対して、ハナビラタケを含有するソフトカプセル及びプラセボ（偽薬）をそれぞれ4週間毎日摂取してもらい、摂取開始前、2週間後、4週間後に水分蒸散量などの項目について評価を行いました。また、4週間摂取終了後に肌のきめなどの項目についてアンケート調査を行いました。

その結果、ハナビラタケ群ではプラセボ群に比べて水分蒸散量が有意に低下し（図3）、肌の保湿性が良好でキめの整った潤いのある肌になっていることが示されました。更にアンケート調査でも肌のきめ、乾燥肌、化粧乗りが改善された方がプラセボ群に比べて多い傾向が認められました。

図 3. ヒト摂取試験における水分蒸散量の変化



< 結論 >

以上の結果より、ハナピラタケを摂取すれば、真皮の繊維組織の状態を整えることにより弾力がありみずみずしく且つシミ・ソバカスの少ないお肌となることが期待されます。

参考

繊維芽細胞

肌の若さを維持する成分を作り出す細胞です。お肌の老化は、**皮膚真皮中の**エラスチンやコラーゲンの量が減り、肌の弾力が乏しくなることが原因です。エラスチンやコラーゲンはたんぱく質の一種で、これを作り出す役目をしているのが皮膚の真皮層にある繊維芽細胞なのです。いわば、お肌の全ての根源にあって重要なかわりを持っている、お肌の母細胞といえます。肌の若々しさを保つには、この繊維芽細胞しだいともいえるのです。

コラーゲン

コラーゲンは、動物の体を形づくる線維状のタンパク質です。人間では全体重の 1/15 がコラーゲンといわれ、体の中できわめて重要な役割を担っています。たとえば皮膚真皮の線維成分の約 90% はコラーゲンであり、皮膚の弾力性や水分保持性に重要な役割をになっています。

メラニン色素

メラノサイト内でチロシンから酵素及び自動酸化によって生成する褐色ないし黒色色素。ほくろやしみ、そばかす等はメラノサイトがメラニン色素を生成することによって生じるものです。

以上